

レスリング選手の性格特性（第8報）  
— 第23回内閣総理大臣杯全日本大学レスリング選手権大会にお  
ける試合前後の情緒変化と試合成績との関係・K大学の場合 —

A study of the correlation between characteristic  
traits and peak performance of wrestling VIII  
— Analysis of the 23 th (1997) prime minister cup national collegiate  
free style championship —

滝 山 将 剛

Yukitaka TAKIYAMA

ABSTRACT

As in previous our reports (Takiyama et al ..1988.1991.1992.1993.1994.1995.1996) , we analyzed what kinds of relationship between changes of characteristic traits and peak performance of wrestles are observed in the 1997 23st Prime Minister `s Cup National Collegiate Freestyle Wrestling Championships. Eight Freestyle wrestles have participated in this championship and were analyzed using YG test of human characteristic traits.Based on the present results, we confirmed our previous reports;i. e..the characteristic traits of wrestles at this time showed a little bit of change in comparison to former ones . Therefore,supervisors of Wrestling skills have to devise a new teaching plan based on the present findings. Furthermore we suggested that,peak performance of wrestling in the championship is deeply dependent upon changes of the wrclistler`s characteristic traits as previously reported.

*Key words; wrestling, Yatest , characteristic.*

は じ め に

選手の競技力向上に関わる要因は多種多様であるが、大まかに分類すると、選手の身体的側面（体力、技能、技術など）に関わる要因と、心理的側面（情緒、気力、性格など）に関わる要因に分けることが可能であろう。

筆者は、選手の競技力向上をはかる目的でこれらの項目の中から、ことに、内面的側面として「精神力」を取り上げて来た。即ち、対人種目である

格闘技においては、究極の場面においては、「技術力」以上に競技の勝敗に直接的な影響を及ぼすと考えられる「闘争心」と言う選手の内面的な側面を科学的に解析し、その結果をもとに、その重要性を強調し競技力向上に役だてることがきわめて重要であると考えからである。ともすれば型として見えやすく、指導者（監督・コーチ）として、指導しやすい「技術の研究」に注意が注がれ過ぎ

競技力向上の方法として安易に流れ過ぎている現状に警鐘を鳴らしてきた。選手の内面的側面（心理的側面）を科学的に解析することは、現状においてはそう簡単ではない。しかし、筆者は、性格検査法として広く受け入れられ、信頼性の高さとで定評のある「Y G 性格検査法」を使用して、試合前に動揺しやすい選手の内面を把握することに努めてきた。即ち、Y G 性格検査を選手の心理的变化が著しく起こると考えられる選手にとって大切な試合（特に国際試合）前後で実施し、同じ条件下でどの性格タイプの者が、どのような情緒的变化を来すかを調べる方法である。今まで漠然としかも、経験的に捕らえられていた選手の試合直前の情緒的变化が、実際の試合結果と大きな関わり合いを持つことが分かってきた。即ち、Y G 性格検査の性格類型と情緒尺度に、それらが如実に反映されることが分かっってきた。言い替えれば、「心理的側面の変化を科学的に捕らえることができるようになった」ということである。

今回は、これらの一連の研究の継続として、1997年11月8日～9日神奈川県逗子市で開催された「第23回内閣総理大臣杯全日本大学レスリング選手権大会」において団体3位となったK大学について、同様の方法を用いて、選手の情緒的側面の変化と、実際の競技成績との関係について調査、解析した。その結果を、今まで筆者が報告してきた結果と比較することによって、今後の競技力向上の施策の一助にすることを目的とした。

### 対象及び測定方法

第23回内閣総理大臣杯全日本大学レスリング選手権大会の、フリースタイル8階級（54kg級、58kg級、63kg級、69kg級、76kg級、85kg級、97kg級、125kg級）に出場した選手8名を対象とした。

Y G 性格検査の実施は、第1回目は平成8年10月30日（通常練習後）、2回目は11月8日（試合前日計量通過後）、3回目は2週間後の11月22日（通常練習後）に行った。今回調査した8人の選手の

氏名、年齢、出身高校、今回の競技成績及び、過去の競技成績を表1に示した。今回の競技成績は表1に示したように団体総合3位、そして個人成績では8階級中、優勝1人、2位2人、3位1人、順位なし2人であった。今回の成績が、試合前後の情緒的变化とどのような関係があったかを知るために、先の報告と同様にYG性格検査を3回実施した。この8人のY G 性格検査による性格類型を表2に示した。

### 結果と考察

#### 1. レスリング選手の性格特性について

Y G 性格プロフィールの類型に準じ、得られた対象者8階級の8選手の試合前（普段）、試合直前、試合後の3回の性格プロフィールから3つの型に分類可能であった。その結果から、右下がり型（安定積極型：D型）性格特性を示す者が4名（50,0%）と一番多く、次いで平均型（平凡型：A型）3名（37,5%）、及び右寄り型（不安定積極型：B型）1名、左下がり型（不安定消極型：E型）1名（12,5%）であった。（表2参照）

これらの結果は、すでに報告されているスポーツマン的性格（安定積極型：D型）の特徴を示すものがK大学レスリング競技の選手においても一番多くみられ、性格特性はその範疇に属していた。しかし、今まで競技者としては、どちらかと言えば、異端視されてきた性格特性を持つE型の選手も1名みられた。この傾向は、近年特に顕著で、筆者らがこの研究を初めてから17年になるが国際的試合において活躍している選手にもこのE型の選手がみられた。従来はD型を示す性格の選手はスポーツマン的性格と呼ばれ、競技者として最も好ましい性格であるとされてきた。しかし、生活環境、その他時代の変化に相応して、従来では考えられなかったような性格特性を有する選手が出現し、選手の心理的側面において質的な変化が確

—第23回内閣総理大臣杯全日本大学レスリング選手権大会における試合前後の情緒変化と試合成績との関係・K大学の場合—

表1 1998年度第23回内閣総理大臣杯、全日本大学レスリング選手権大会、8階級の氏名、階級、年齢、過去の成績、及び団体総合成績。

氏名	階級	出身校	年齢(学年)	今回の成績	過去の成績
松橋 弘幸	54	青森光星学院	19(2)	順位なし	'97内閣杯2位(48kg)、'97エスポアール優勝
川本 久志	58	北海	22(4)	3位	'97内閣杯2位、'97国体3位
佐藤 将章	63	南京都	22(4)	2位	'95内閣杯優勝 '96インカレ2位 '97インカレ優勝
星野 勇二	69	東京実	22(4)	順位なし	'94・'95内閣杯3位
永井 敬誠	76	秋田商	22(4)	4位	'95秋季新人戦(グレコ)優勝、(フリー)2位
小林 永敏	85	三重員弁	22(3)	5位	'97秋季新人戦(フリー)3位
熊田 良一	97	延岡商	22(4)	2位	'95エスポアール選手権優勝、'97国体5位
吉田清太郎	125	秋田商	21(3)	優勝	'97国体、インカレ優勝、学生グレコ選手権優勝
団体総合成績 第3位					

実に起こっていることを示しており、技術面での改変と平行して、常に考えて置かなければならない選手の資質であることを示唆するものである。

## 2. 競技成績との関係について

### 1) D-型について

図1、図2、図3、図4は、前述のように、従来からスポーツマン的性格とされ、競技者として最も好ましいとされてきた典型的なD-型を示した者全員の結果を試合前(丸印)、試合直前(三角)、試合後(黒丸印)についてプロットして示した。このD-型を示した選手は対象者8人中4人おり、競技成績は、優勝1名、2位1名、4位1名、順位なし1名であった。

図1は63kg級のM.S選手のものである。この選手は今回は決勝で惜敗したがチームの主将であり過去の成績は表1にみられるごとく学生界のトッ

プレベルの選手である。情緒尺度についてみると、試合直前にD尺度(抑うつ性)、C尺度(回帰性傾向、気が変わり易く、感情的であるなど、情緒不安定を示す尺度)、I尺度(劣等感の強いこと、自信の欠乏、事故の過小評価など)らの情緒尺度の減少がみられる。この意味するところは、試合前に情緒的側面の充実が計られ、精神面においては最高調の状態ですべてに臨んでいたことが推察される。M.S選手が高校、大学を通して常に好成績を納めてきたのは、このような安定した情緒のセルフコントロールが可能であることが重要な要因であると考えられる。

図2は125kg級のS.Y選手のもので、将来を嘱望されている選手である。競技成績も表1に見られるように学生の大会のみならず、全日本レベルにおいても好成績を納めている選手である。情緒尺度についてみると、この選手は、D尺度、C尺度、I尺度、において情緒的变化が観察された。しかも試合後においてマイナス面に変化がみられた。一般的に試合に臨む選手の精神的・不安傾向がマイナス面への情緒変化として表われることが多いが、この場合はそれと全く逆の現象であった。この意味するところは不明で今後の研究課題である。

図3は69kg級のY.H選手、図4は76kg級T、N選手のものである。両選手とも試合前及び、試合直前の各情緒尺度にはほとんど変化は無かった。D-型を示すタイプは情緒的变化をきたさない時、持

表2 1998年度 第23回内閣総理大臣杯、全日本大学レスリング選手権、k大学のフリースタイル8階級の性格特性の人数とそのパーセンテージ。

フリースタイル 8階級	
D-型(安定積極型)	4名(50%)
A-型(平凡型)	3名(37.5%)
E-型(不安定積極型)	1名(12.5%)

N=8

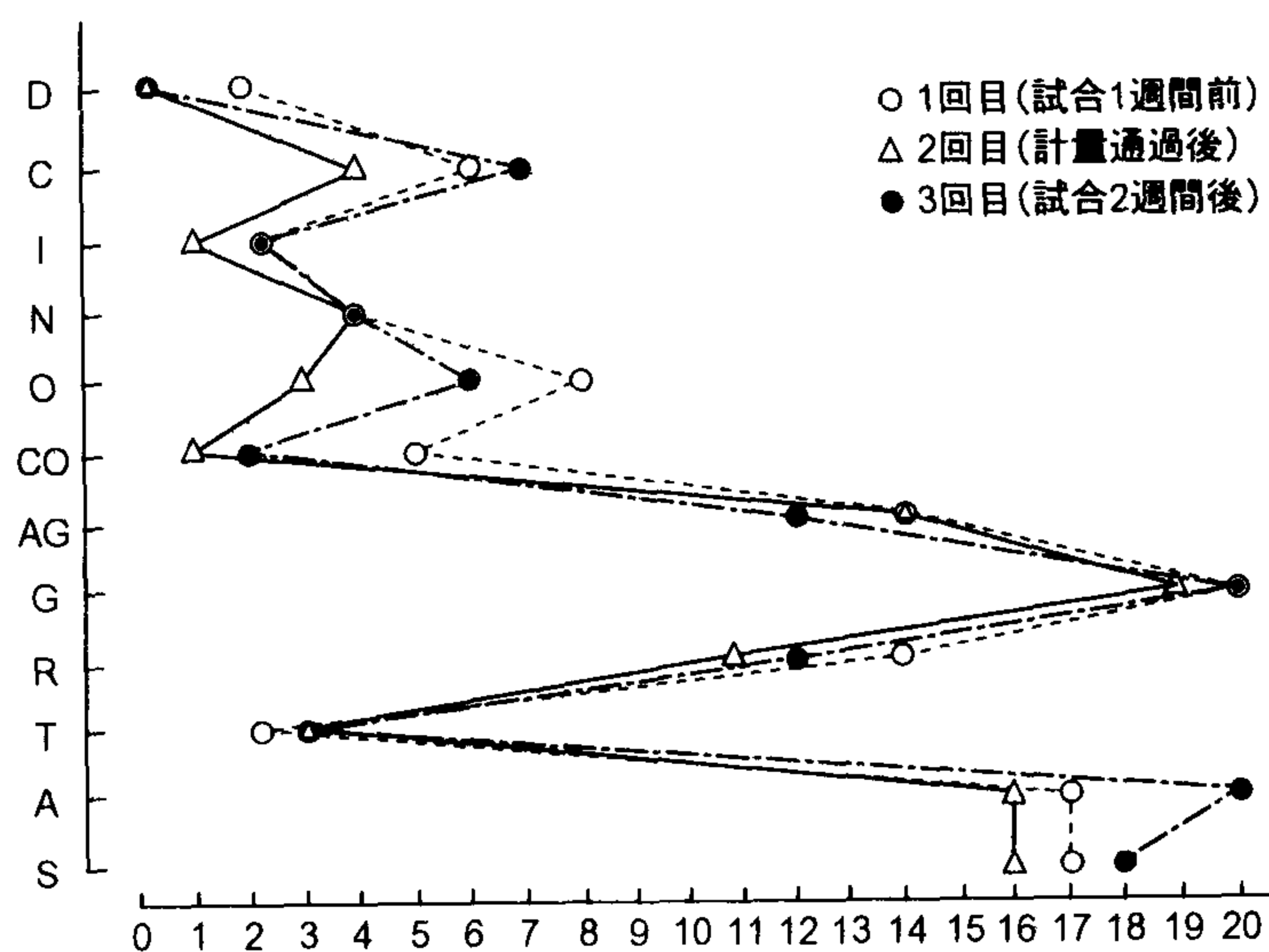


図1 情緒的变化からみたD型の選手 (M.S)

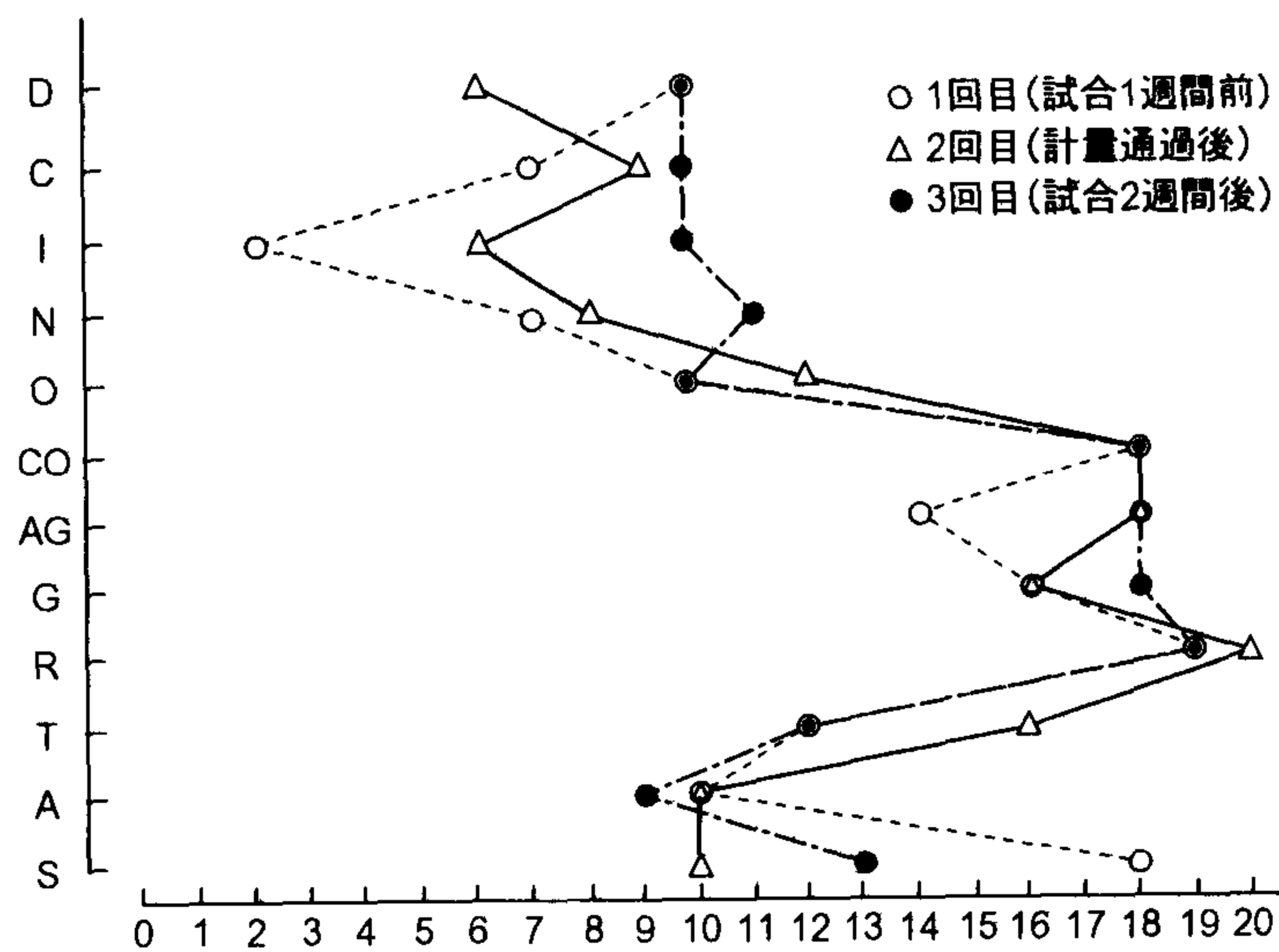


図2 情緒的变化からみたD型の選手 (Y.S)

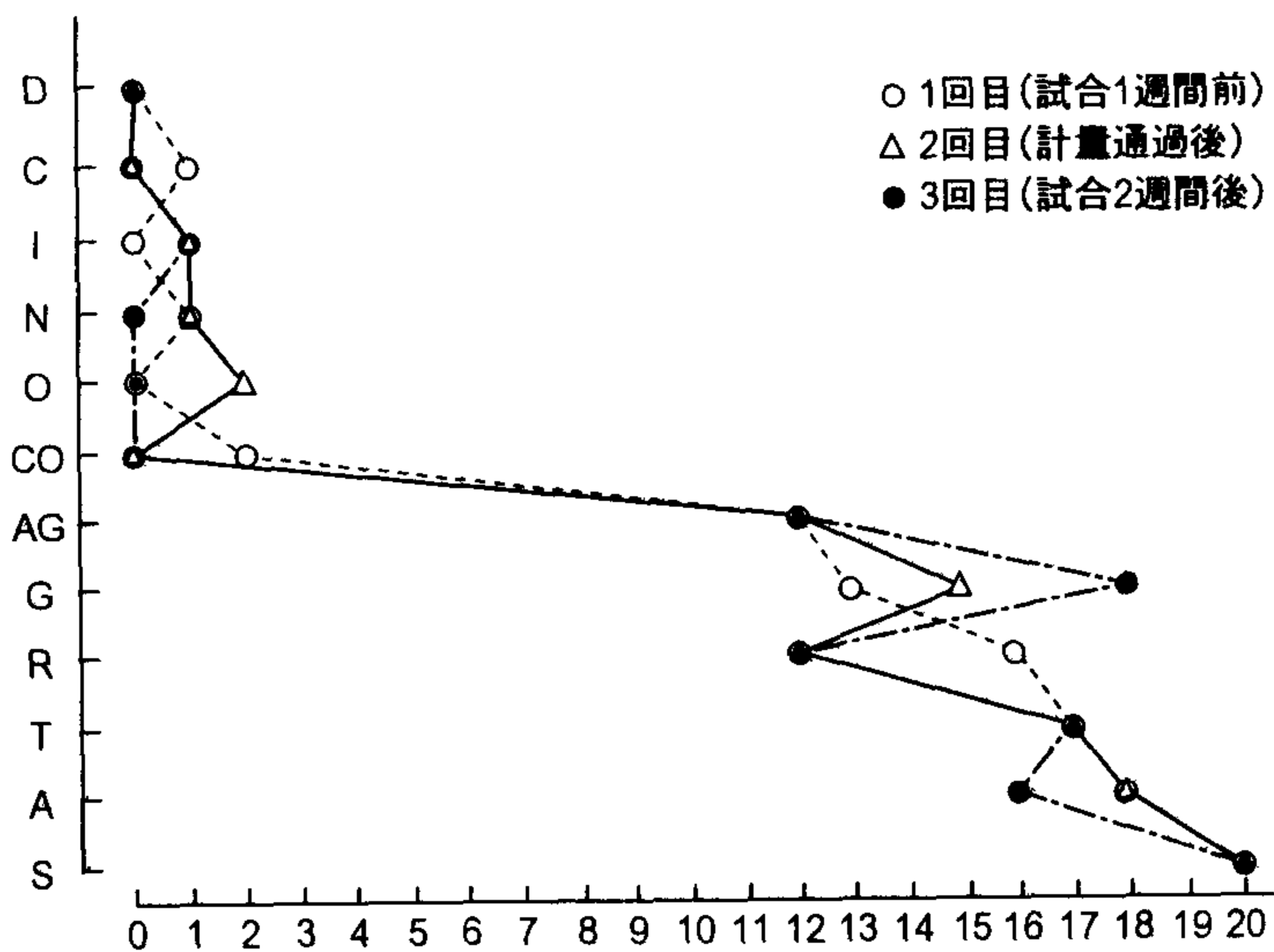


図3 情緒的变化からみたD型の選手 (Y.H)

てる力を十分発揮することは既に報告されている通りである。しかし、レスリング選手にとって情緒的变化が少ないことは、ともすれば試合に関してはマイナスに作用すると考えられる。即ち、情緒の変化の無い事は、闘争心の欠如につながると考えられるからである。日常生活とは異なった異常な心理的葛藤を要求される試合の場面を考えれば、この情緒的变化が激しい選手がむしろ試合の場面に於いては好ましい性格となる可能性がある。従ってレスリングのみならず競技力向上の一環として、情緒的に激しいものを持った選手の育成も必要であると考えられる。

## 2) A型について

図5は97kg級のR.K選手のものである。今大会の競技成績は決勝戦において接戦の末破れ2位であった。情緒尺度の変化についてみると、C尺度、及び、N尺度においてマイナス面への変化がみられる。これは試合前の緊張感からくるものと推察されるが、この緊張感が適度の集中力を高める結果となり、良い方向に作用したものと推察される。

図6は63kg級のH.K選手のものである。今大会の競技成績は3位であった。表1に示したように、各大会において常に好成績を納めている選手である。情緒尺度についてみると、D尺度、I尺度、N尺度において情緒的变化が観察され、ことにD尺度の極端な減少が特徴的であった。これは試合直前に情緒的側面の不安定さが払拭されてたことを示唆するものである。これが、各大会において好成績を納めてる要因であると推察される。

図7は54kg級のH.M選手のものである。情緒尺度の変化についてみると、D尺度、C尺度が試合直前にプラス面への変化として認められた。これは試合前に情緒的側面の充実が計られ、精神面においては最高の状態で試合に臨だものと推察される。高校、大学を通して常に好成績を納めてきたのはという緊張した場面においても安定した情緒セルフコントロールできたものと推察される。試合で



—第23回内閣総理大臣杯全日本大学レスリング選手権大会における試合前後の情緒変化と試合成績との関係・K大学の場合—

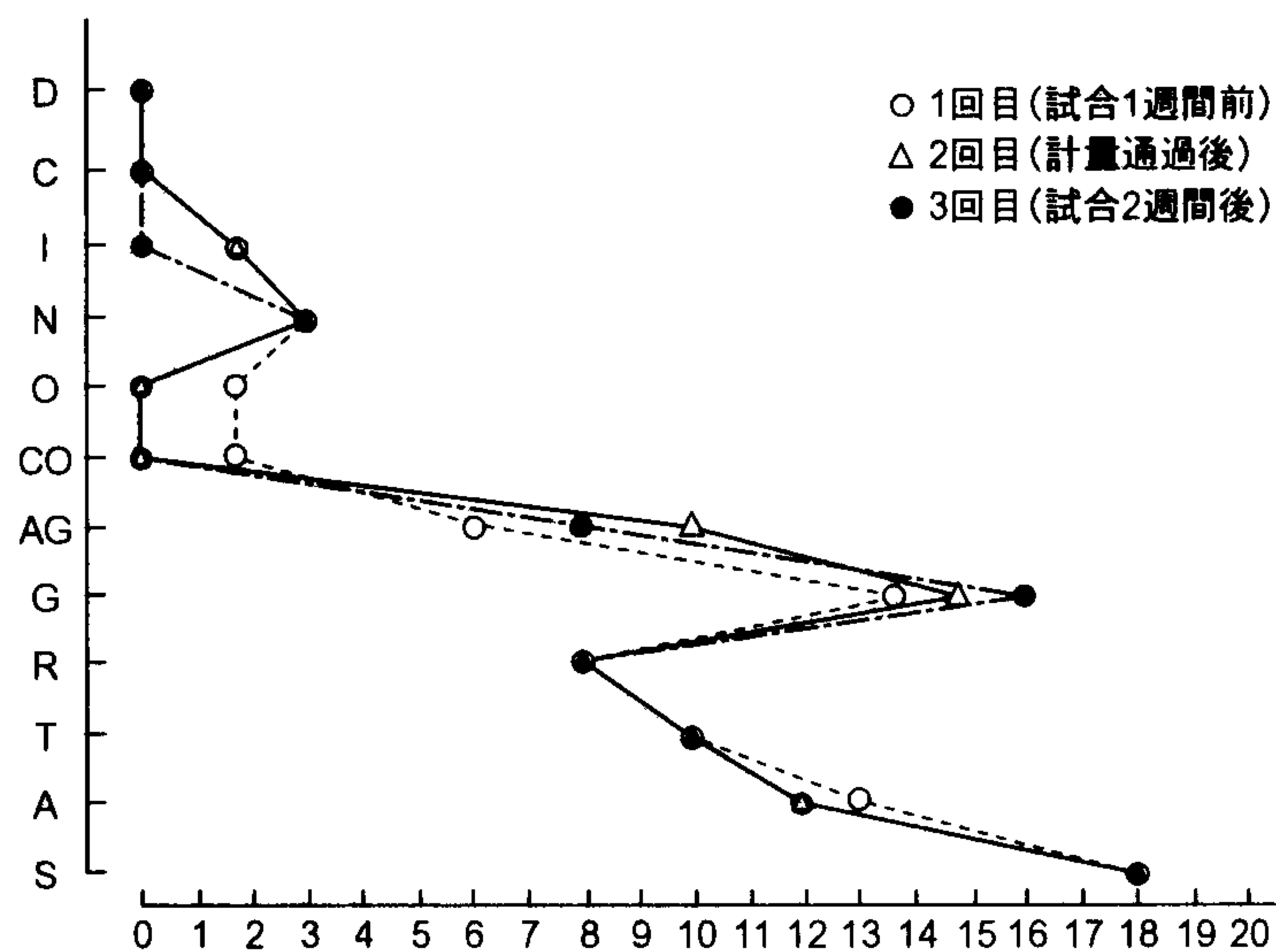


図4 情緒的变化からみたD型の選手 (K.N)

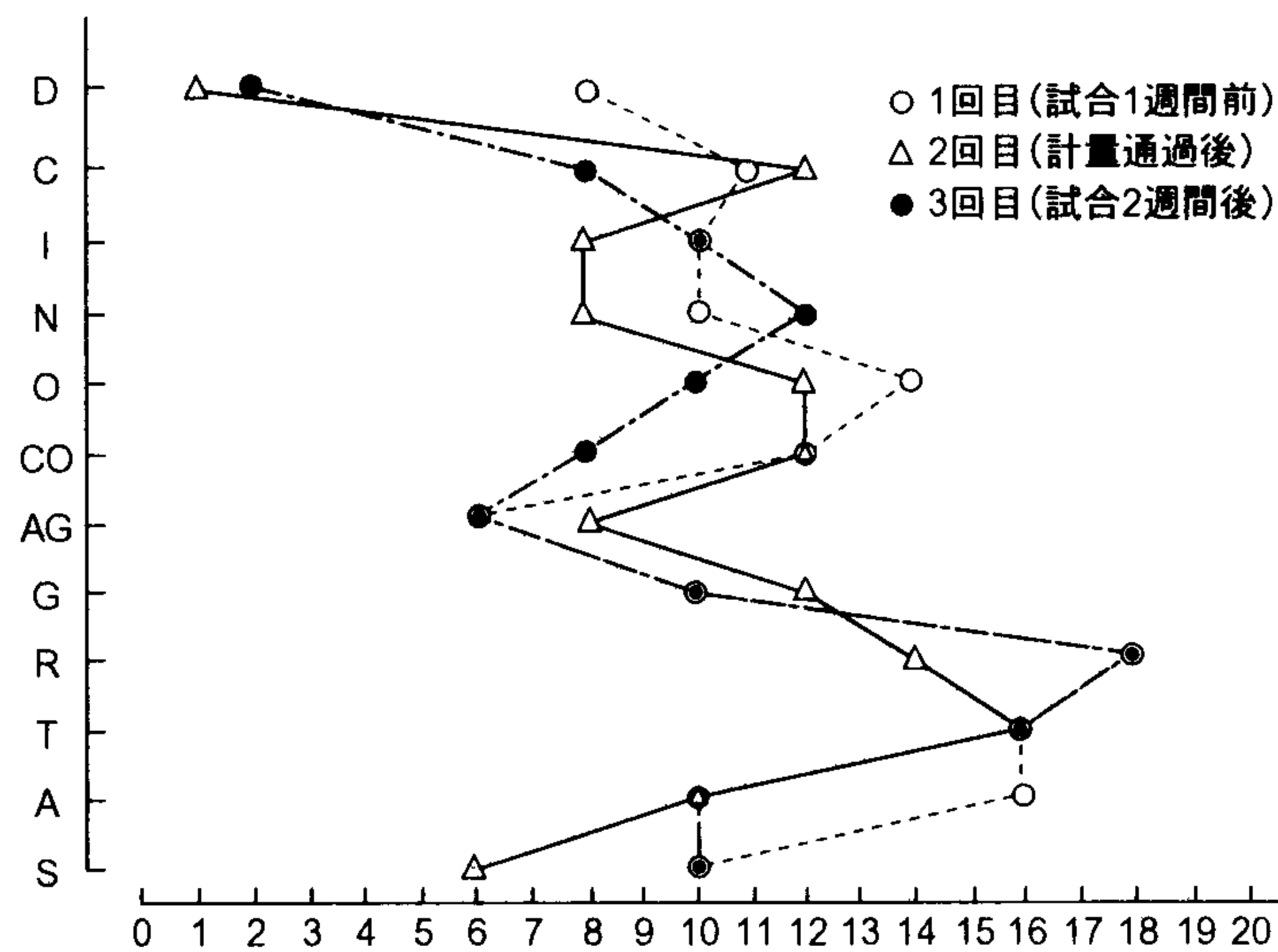


図7 情緒的变化からみたA型の選手 (H.M)

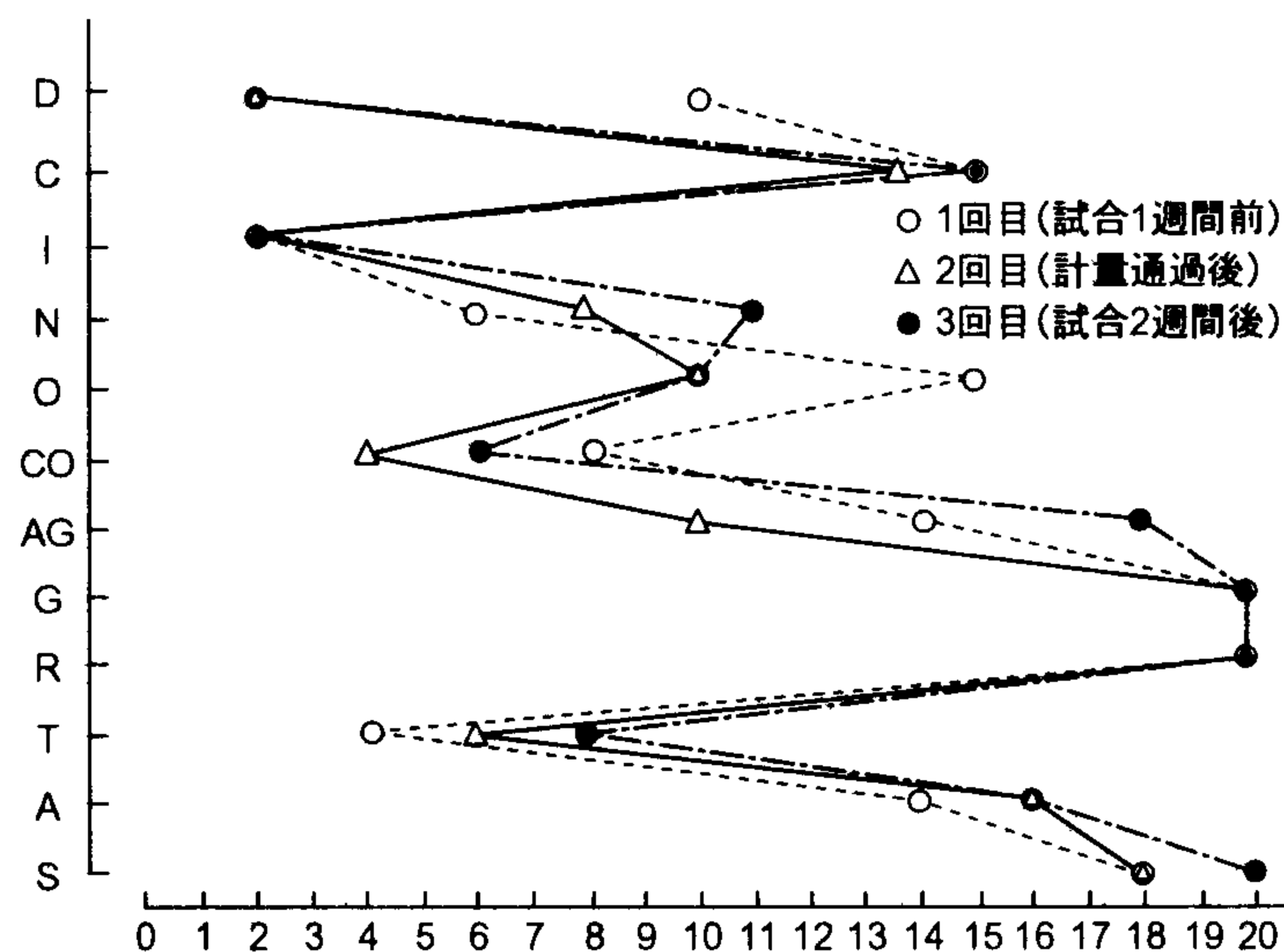


図5 情緒的变化からみたA型の選手 (R.K)

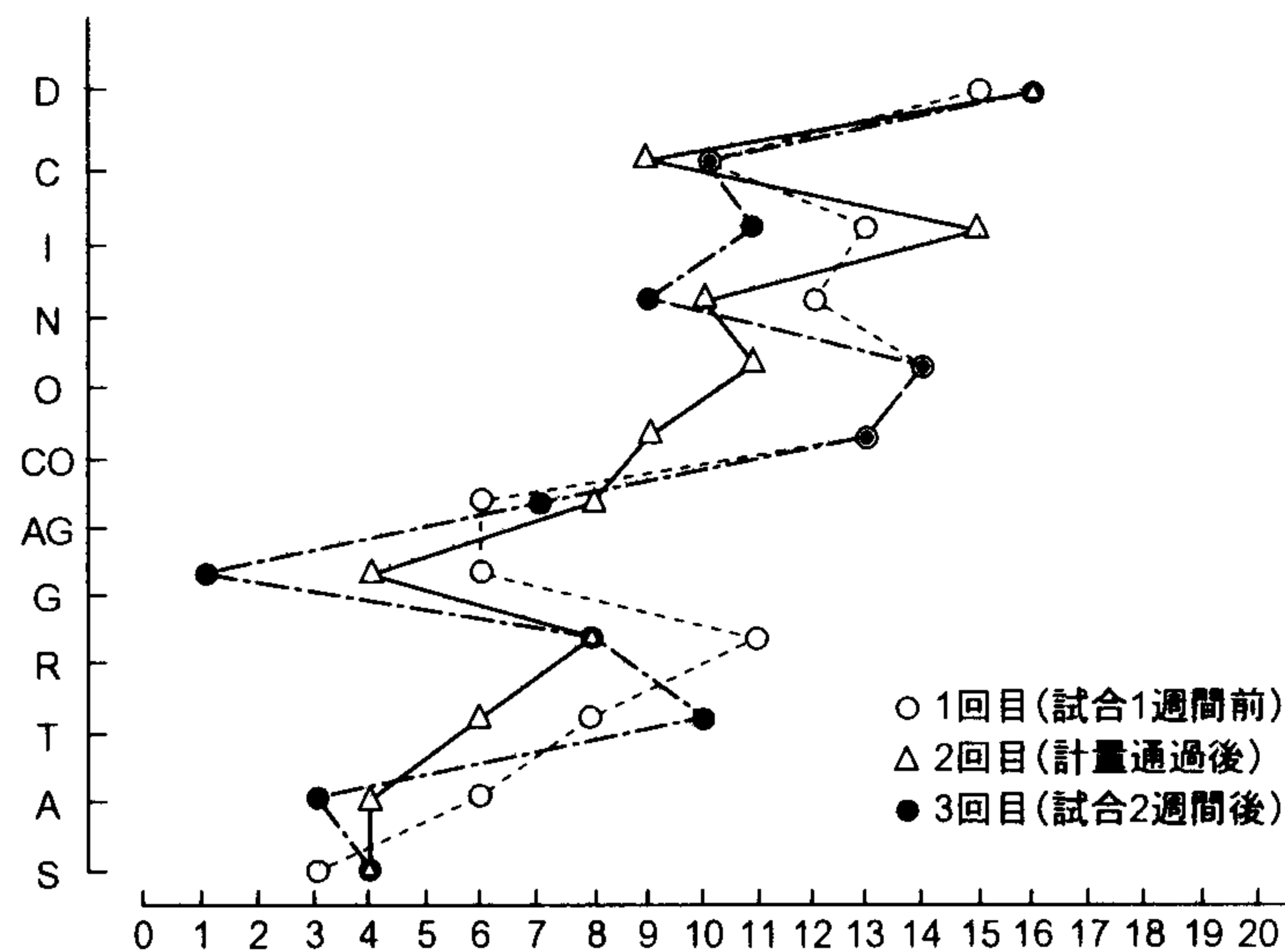


図8 情緒的变化からみたE型の選手 (N.K)

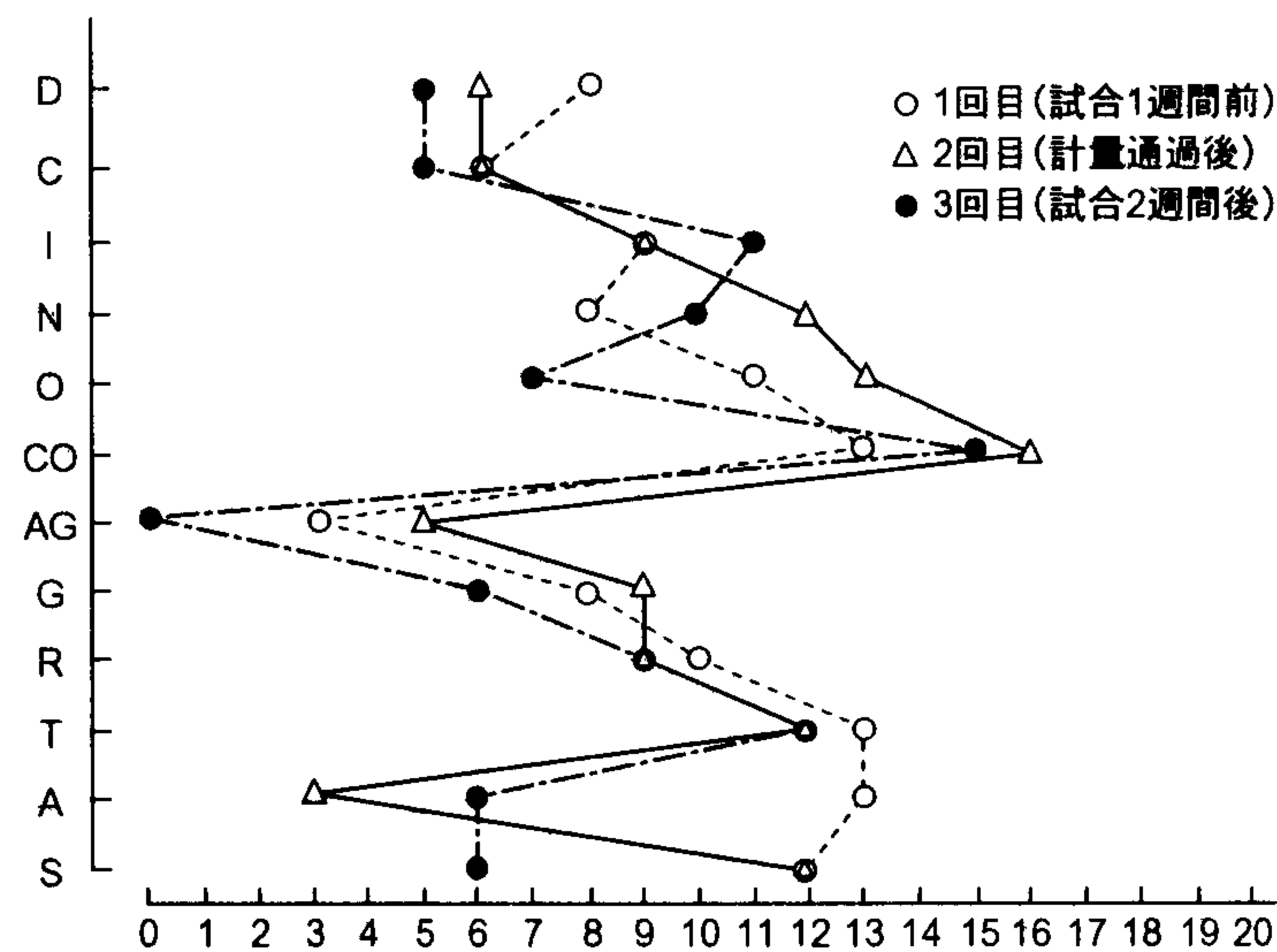


図6 情緒的变化からみたA型の選手 (H.K)

の精神面の充実ぶりが推察出来る。今大会は自分のベストウエートの48kg級が廃止され一気に54kg級となったために（国際レスリング連盟が1997.1.1より階級の変更を実施）、今大会は体力不足で予想を下回る成績に終わった。

### 3) E型について

図8はN.K選手のものである。調査対象の8名中ただ一人E型を示した選手があった、しかも典型的なE型である。成績は5位であったが試合内容は接戦での敗退が多く、情緒面ではまったく不

安は感じられなかった。

## ま と め

今回のYG性格検査の結果から、実際のレスリング選手の競技力向上に関する精神的側面について、最近の性格類型が大きく変わってきている事実は先の報告を支持するものであった。また、情緒的側面の変化がプラス面への変化を示した選手は好成績を納め、マイナス面への変化を示した選手の競技成績は、概して不振であった。このことについても、先の報告を支持するものであった。

謝辞

本研究は、体育学部附属体育研究所1997年度研究助成によって実施した。

## 引用・参考文献

- 1) 滝山将剛：レスリング選手の性格特性（5報）—第24回ソウルオリンピック大会の前後における情緒の変化と成績との関係—、国土舘大学体育研究所報 7:13-19, 1988.2) 滝山将剛：レスリング選手の性格特性とその試合前後の情緒変化について、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、No.11競技力向上に関する研究、15:206-209, 1991.3) 滝山将剛：レスリング選手の性格特性とその試合結果の関係、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、No.11競技力向上に関する研究、16:277-279, 1992.
- 4) 滝山将剛：レスリング選手の性格特性と試合前後の情緒変化と競技成績との関係、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、No.11競技力向上に関する研究、21:259-262, 1994.
- 5) 滝山将剛：レスリング選手の性格特性（6報）—1993年度世界選手権大会及びエスポアール世界選手権大会における試合前後の情緒変化と競技成績との関係—、国土舘大学体育研究所報 14:17-19, 1995.
- 6) 滝山将剛：レスリング選手の性格特性（第7報）・第21回内閣総理大臣杯 全日本大学レスリング選手権大会における試合前後の情緒変化と試合成績との関係・優勝チームK大学の場合、国土舘大学体育研究所 13:19, 1996
- 7) 滝山将剛：レスリング選手の性格特性と試合直前の情緒変化と競技成績の関係、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、No. Ⅱ 競技力種目別競技力向上に関する研究、19:291-294, 1995.
- 8) 辻岡美延：YG性格検査手引き、日本心理学研究所、1978.